

「2023年 第1回GRITセミナー」

5月19日(火)の5・6時間目に、中学1年生と高校3年生を対象として、第1回GRITセミナーを実施しました。約3800人を看取られた終末期医療の第一人者でいらっしゃる一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会代表理事・めぐみ在宅クリニック院長の小澤 竹俊 先生(医師)をお招きし、「ユニバーサル・ホスピスマインドをすべての人生のそばに」と題してご講演を頂きました。また、ご講演後は高校3年生の医学コースの生徒との座談会も開かれました。ご講演は多くの生徒の胸に響いた様子で、事後のアンケートの結果からもそれがうかがわれました。

生徒のコメントから：

「私も、過去に一人で不安を抱え込んでいた時がありました。その時、『誰かに話したい』という思いもありました。しかし、『聞いてもらえないかもしれない……』、『逆に怒られるかも……』と思い、しばらく一人で抱え込んでいました。その時に話を聞いてくれたのが、母でした。母は私に寄り添いながら、話を聞いてくれました。今日、改めて話を聞いて、「そういえば、あんなことがあったな」と思い出しました。やっぱり、困っている人は誰かに話を聞いてもらいたいんだなと思いました。これから私は、困っている人がいたら、相手に寄り添いながら話を聞き、少しでも相手が楽になれるよう、行動したいです。今日は本当にありがとうございました！」(中1)

「誰かを頼ることは自分の弱さを認めることだ、とひとりで抱え込んでしまうことが今までに何度もありました。しかし、自分の弱さを認めることは悪いことじゃない、誰かを頼ることを出来る勇気で心はずっとずっと楽になるのだということをこの講演で知ることが出来ました。私がこの講演で前向きになれたように、私自身も誰かにこの講演で学べたことを伝え、その人の心を少しでも楽にしてあげられればいいなと思います。」(高3)

「無責任な「大丈夫」について昔から考えていて、自分が責任取れないけど「大丈夫」というのは、相手の安心につながる場合と無責任だと思われて今後相談されなくなる場合の二つあると考えています。自分は後者の考えを持っているので、相談に対して滅多に「大丈夫」という言葉を意識して使いません。でも相手がその言葉を待っていたら？大丈夫と言ってほしくて相談してくれていたら？悩みどころです。相手の言葉を反復することでわかってくれていると思える、安心できる相手が見つかるというのはその通りだと感じました。でもやっぱりそれは誰もがができる無難な対相手策であり、そこから一つ踏み込んだ、その一人一人にかけられる言葉の紡ぎ方についてもっと考えたいです。」(高3)

